

岸田吟香 きしやう 新聞記者、事業家。天保四年四月八日美作國生れ。

明治二十八年六月七日歿（六三―九五）。謹國華、幼名太郎、通稱銀

次郎、銀次。筆名ケーエスマソム、吟香居士、岸吟香、岸國華、樂善

堂、墨江櫻、K.S. ASOME 等。津山藩儒者 ニホウ 合精溪、のち藤森天山の門公

入る。慶應元年濱田彦藏等の『海外新聞』發刊、二年 J.C. ポン

の『和英語林集成』編纂を夫の助勢。四年ヅェンリードと 横濱 『新報』の

『草』を創刊、また眼藥精銆水を調劑發賣。明治五年日報社に入社、

『東京日々新聞』紙上の臺灣征討從軍記、明治天皇巡幸記等を連載

した。二十一年荒尾精之助清貿易研究所を興し、二十二年上海の東亞

同文書院を創設。洋畫家岸田劉生はその四男。

著書、朱飲山著『詩法纂論』（一名千金譜録要）『訓點、小野湖山校、

明治十四年六月二十日刻成。樂善堂書房藏梓）、ホフゼット 法思德著『富國策』

全三冊（訓點、中田敬義校訂、明治十四年十一月樂善堂藏版）、『蘆

生新編』（明治二十六年二月二日樂善堂）、『五十名家語錄』（合著

・平田骨仙撰、明治二十一年十月十二日平田勝馬刊、鐵筆書院）、『名

士の嗜好』（合著・中央新聞社編、明治二十二年一月二十一日文武

堂）等。

文獻、若山甲藏編『岸田吟香翁』（大正十四年二月二十八日宮崎・宮

崎・宮崎縣政評論社）、岩崎榮著『岸田吟香』（昭和十六年八月一日

新興亞社）、杉山榮著『先驅者岸田吟香』（昭和二十七年四月五日岡

山・岸田吟香顯彰刊行會）、土師清一著『吟香素

描』（昭和二十四年十一月十五日西垣武一藏版、



東峰書房）等。